

### 3 筆順を正しく習得させる指導について (2年)

#### 【板書事項】



#### 【指導の流れ】

- 1 漢字を板書し、読み方を教える。  
その際、一画目を白、二画目を黄、三画目を赤（以下、白、黄、赤の順で変える）とチョークの色を変え、筆順を視覚的にとらえさせる。  
『里』という字です。筆順に気を付けて練習します。」
- 2 空書きをし、書き取り練習をする。  
「里は七画です。空書きをします。指を出しましょう（空書き）。ノートに練習しましょう。」
- 3 真ん中の縦画を横画の後で書く筆順のきまりに気付かせる。  
「里の上のところは、日と書いてから縦画で真ん中を通して書きます。似た書き方をする漢字には、どのようなものがありますか。」  
C「中です。」  
C「車です。」
- 4 形は似ているが筆順のきまりが異なる漢字について知らせる。  
「次の三つの漢字の中で、『里』と違って真ん中の縦画を横画の後で書かない字が一つあります。どれでしょう。」  
（書 東 由）  
「答えは 由です。由の筆順は田と似ています。」

#### 【留意点】

- 1 チョークの色分けでは、あまりに多くの色を使うと筆順がかえって分かりにくくなる。予め児童と順番について決めておくとうい。
- 2 「一、二…」と、「一画」と児童に数を数えながら空書きさせる。  
ノートに練習させる際は、「ふる里」など、熟語で練習させる。
- 3 既習の漢字から考えさせる。学習する漢字（今回は「里」と似た左右対称の漢字から考えさせるとよい。児童の発表が少ない場合には、こちらから提示してもよい。
- 4 既習の漢字から考えさせる。「半」「牛」でもよい。「東」「書」は縦画の後に書く部分があるが、「里」の下の横画も縦画の後で書く似た筆順の漢字ある。「こ」では、左右対称の漢字では縦画を後で書くことが多いこと、しかしながら、左右対称の漢字すべてが縦画を後で書くわけではないことの二点を押さえる。